

平成29年度第1回外来種調査検討会議事概要

1 座長、座長代理の指名

座長は、互選により芹沢委員となった。

座長代理は、芹沢座長の指名により子安委員となった。

2 議題1 条例公表種（陸域）の調査計画について

議題2 ブルーデータブックあいち2012の改訂に向けた外来種（陸域）の調査計画について

- ・資料2、資料3により調査計画について説明。（事務局）
- ・メリケントキンソウは芝生などに入り込み、画鋲のような鋭い棘で人を傷つけるため、現状を把握して対策をしたい。調査対象種に入れたい。（委員）
- ・メリケントキンソウは他の植物への影響はそれほど無いが、人間に対して害がある。現状を調査するという点で、メリケントキンソウを加える。（合意事項）
- ・ソウシチョウはかなり前から多く入ってきている。標高の低い所まで下りてきたため、目に触れる機会が多くなった。ガビチョウも最近増えてきており、今のうちに調査したい。（委員）
- ・ソウシチョウも調査対象種としたい。（事務局）
- ・昆虫類は、ムシヤクロツバメシジミなどがあるが、さほど影響は出ていないと思う。（委員）
- ・調査対象種は2種（メリケントキンソウ、ソウシチョウ）を追加する。（合意事項）
- ・維管束植物の分布情報について、これまで58区画区分で整理してきたが、現在77区画区分で整理し直している。（委員）

3 議題3 その他

- ・資料4により条例に基づき公表する移入種の選定基準等について説明。（事務局）
- ・参考資料に基づきヒアリの発見の状況、検討の対応状況、国内の事例及びヒアリの特徴について説明。（事務局）
- ・今問題になっているヒアリは調査対象種に入れても良いと思うがいかがか。（委員）
- ・国による調査がしっかりと行われ、完全に水際での対応がとられているため、ヒアリは県としてそれほど強く対応する必要はないと思う。（委員）
- ・県では、関係団体等への注意喚起を行っている。ヒアリは日本にまだ定着しておらず、水際対策が取られていることと、国で対策がとられていることから、本調査の調査対象種には入れず、今の体制で侵入防止を図っていきたい。（事務局）
- ・県のホームページに緊急情報としてヒアリの情報提供を行っている。また、見つけた場合の連絡先（愛知県自然環境課）や刺された場合の対応も掲載している。（事務局）
- ・ヒアリは今回、本検討会の調査対象外としたいが、啓発をする上で協力できることがあれば協力したい。（合意事項）
- ・以前当検討会で話題になったヒガタアシは、愛知県では今年10月の駆除で根絶予定である。ヒガタアシの場合、マスコミの方に非常に力になっていただいた。今回も県民の方々に正しい情報を提示していただくとともに、「日本の在来のアリをむやみに殺さないで」と伝えてほしい。（委員）

- ・環境調査センターがデータの収集・蓄積を進めているが、できれば愛知県にも自然史博物館が欲しい。(委員)
- ・様々な外来種が増えてきており、ヒアリのよう問題になった時に集中的に対応することも大事だが、常に全ての外来種の情報を蓄積することも重要なので、そのような方向性で本年度の調査を進めたい。(合意事項)